

中学校・高等学校における，ダンス指導に 有用な映像コンテンツの開発

Creating Effective Visual Contents for Dance Education at Junior High and High Schools

宮本 乙女¹⁾ 松山 善弘²⁾ 松澤 慶信³⁾ 小山 佳子⁴⁾
坂本 秀子⁵⁾ 八木 ありさ⁶⁾ 高野 美和子⁷⁾ 岩淵 多喜子⁸⁾

*Otome MIYAMOTO, Yoshihiro MATSUYAMA, Yoshinobu MATSUZAWA
Kayoko KOYAMA, Hideko SAKAMOTO, Arisa YAGI
Miwako TAKANO and Takiko IWABUCHI*

Abstract

Dance became a compulsory subject for Japanese junior high school Grade 1 and Grade 2 students in 2012, but there are challenges associated with the instructors' ability to teach dance. There are websites that present dance videos that claim to be teacher-oriented but mostly do not go beyond being merely methods for practicing street-dance steps or being choreography videos. In this study, teachers with a Dance Studies major proposed topics useful for teaching dance in junior and senior high schools from among their respective specialized dance genres and developed and presented visual contents for problem-solving types of classes. With respect to creating classes, tips on to how to show the points and allocation of time were added. The visual contents created by utilizing the unique problem-solving teaching styles of the instructors, along with the reflections from the research team and the Web input, had the potential to provide a new perspective on dance education for junior and senior high schools and enable its improvement. Using the Web for distribution of the visual contents led to a lot of views but collection of evaluations could not be adequately secured.

Keywords : *Dance, visual contents, problem-solving teaching style, junior and senior high schools*

I はじめに

2012年度よりダンスが中学校1・2年生で必修となったが，中村ら(2014)の調査⁵⁾によれば，中学校では教員のダンス指導力に課題があり，十分な対応ができていない状況であった。そのため，これらの問題を克服するために，現職教員への研修の充実が求められている。しかしながら，現職の教員が数多くの研修に出ることは難しい。

こうした状況で，教員が利用すると考えられる Web

サイトには，教員向けと称したダンス映像を公開しているものがある。例えば，「ダンス授業」「中学校」を検索キーワードとしてWebサイトの動画を検索(Google 2016.8.31)した際，上位30件を分類した結果は表1の通りである。

上位30件に限ってはああるが，概観して，中学校にヒップホップダンスというジャンルが入ったという誤解を招く表現が多く，単にストリートダンスのステップの練習法や振り付け作品そのものの映像にとどまっているものが多い。授業の進め方を初心者教員向けに丁寧に解説しているものは見当たらない。

松本等は，創作ダンスの課題解決型の学習において，その題材の元となる内容選択の柱を提案している¹⁾。現在その柱から，実践されて有効性が確認されている題材はすでに学習指導要領の題材例として解説書に掲げられているものも多い²⁾。松本等は，この内容選択の

1) 日本女子体育大学 (教授)
2) 日本女子体育大学 (教授)
3) 日本女子体育大学 (教授)
4) 日本女子体育大学 (教授)
5) 日本女子体育大学 (教授)
6) 日本女子体育大学 (教授)
7) 日本女子体育大学 (准教授)
8) 日本女子体育大学 (講師)

柱からさらに多くの有用な「新しい表現性（美的形成と技術）に気づかせる」題材を開発できるとしている。

以上のような背景から、この研究チームでは、中学校・高等学校の保健体育科教員向けに、ダンス指導に有用な映像コンテンツを開発しようと考えた。

研究チームには、様々なダンスジャンルの専門性を

有する教員や、美学を専門とする教員がいる。これまで通常の教育舞踊（学校体育におけるダンス）の題材としては使われてこなかったダンスジャンルなどから取り組む題材開発は、まさに、松本等の示唆する新しい題材の提案につながるのではないかと考えられる。授業作りにあっては、長く中学校で教育舞踊に携わっ

表1 Webサイトの動画30件の検討

件数	タイトルの例	特徴	課題
11件	「先生方必見!!中学生の授業で必修科目 ヒップホップダンス指導」「ヒップホップダンスの有効な指導方法」「ヒップホップダンスの指導でお困りの中学校の先生に朗報!」「明日から授業で使えるヒップホップダンスの指導法」「体育の授業で使える リズムダンスの決定版 基本編」「ヒップホップ・ダンス・10時限学習プログラムサンプル映像」	市販DVDへ誘導する映像。指導に有効なステップをカリスマダンサーが教える、という宣伝の画像9件や、ストリート系ダンスのステップ練習のサンプル映像2件。	ヒップホップダンスそのものが学校教育のダンスに入ってきたかのように受け取られる可能性がある。
8件	「中学生が授業でヒップホップ ○○市○○中」「○○中学校ダンス授業」「○○中学校ダンス授業動画」「中学生 Rising Sun Project 夢の課外授業 ダンス」	一般の中学校に、ダンススタジオ講師、ダンススクールインストラクターが来校するなどして特別授業をしている映像。通常の体育の授業スタイルではなく、学年全体などの大人数に対してステージの上から一斉指導を行う。	インストラクターが一斉指導で、既成のダンスを振り写しするスタイルが、体育授業でのダンス指導法として受け取られる可能性がある（「課外授業」と明記している2件を除く）。
5件	「中学校 表現運動・現代的なリズムのダンス模範演技」「中学校授業用リズムダンス」「中学校の体育授業や学祭で使える簡単な創作ダンス振り付け見本」「【創作ダンス】体育のダンス授業はカッコいい自分を見せるチャンスなんだ」	既成の作品のみをアップしている映像。タイトルでは、創作ダンス振り付け見本、【創作ダンス】等と述べているものもあるが、中身は現代的リズムのダンス作品となっている。	体育授業では、既成作品を振り写しするかのようには受け取られる可能性がある。現代的なダンスのリズムと創作ダンスが混同して使われている。
1件	「中学校体育で行う「チームエアロビック」の研究授業」	エアロビックダンスをダンスと捉えた授業のダイジェスト。	体づくり運動領域のエアロビックダンスがダンスの領域であるという誤解を生む可能性がある。
1件	「中学校・高等学校のダンス授業に向けて2」	市販DVDに誘導する映像。中・高の学習内容に沿っているが、アップされている部分は、フォークダンスとリズムのダンスについてはステップや作品の伝授、創作ダンスについては参考作品の技術的なポイントの解説等。	現代的なリズムのダンスがステップや作品の伝授でよいように受け取られる可能性がある。創作ダンスは参考作品を学ぶような誤解を生む可能性がある。
1件	「授業ダンス用【参考動画付き】」	テレビなどで放映された海外や日本の様々なステージのダンス作品（リズム系）の映像を収集した動画集。	作品を創作させる際にこれらのダンスから選んで生徒に見せるような誤解を生む。
3件	「○中3年ダンスの授業」「H.23 みんなでダンス中学生の部 優秀賞」	中学生のダンス作品発表の一部を個人的にアップしていると推察できる。	特に問題は無いが授業づくりの参考にはならない。

ている教員もいる。このチームで開発した新しい題材による授業を映像で提案することは、現場の教員の実践に具体的なヒントとなるのではないだろうか。芸術関連の学科ではなく、体育学科の中に舞踊専攻を擁する本学ならではの特性を生かして、社会への発信を期待できる。

II この報告の目的

本稿は、本学舞踊学専攻教員がそれぞれの得意なダンスジャンルから、中学校・高等学校のダンス指導に役立つ題材を提案し、授業スタイルに構成して作成した映像コンテンツを公開した経緯と現段階で得られた成果を報告するものである。

III 研究方法

1. 教員用映像コンテンツ開発の指針の検討

研究チームの人数や収録できる日程、また視聴者の視聴時間などを考慮して、以下の様に開発の指針を決定した。

- ・提案する題材（授業数）は7人の実技指導者が8つ程度とする。
- ・映像の長さは1単位時間50分授業のダイジェスト版で20分程度とする。
- ・公開された映像視聴後にアンケートを記入してもらい、フィードバックを得ることとする。

2. 先行研究の検討と題材の選択

先行研究⁴⁾より、今回の授業作りのモデルは、一時間完結の課題解決型の授業とした。実践者それぞれが専門とするダンスジャンルから題材を提案し「その題材をどう示すか」「その題材で学習者からどのような内容を引き出すか」については、複数教員で検討した。

3. コンテンツの作成と Web での公開

- ① カメラ3台および指導者用マイクによって収録を行った。
- ② 編集を行い、キャプションを入れ、授業者の意図や解説を加えた。
- ③ Web をデザインしたのち、大学内サーバー申請を行った。日本女子体育大学のホームページから入る「舞踊学専攻」のページにアップした。映像部分はYouTubeにリンク、アンケート部分は、Google

フォームとリンクさせた。掲載タイトルを「ダンス指導に役立つ映像コンテンツ」とした。

<http://exp5.jwcpe.jp/>

- ④ 各教員が、はがき、ちらし、メール等でコンテンツの宣伝を行った。

※①②③の作業にプロのカメラマン、編集者、デザイナーの協力を得た。

4. 評価

Webのアンケート結果及び実践映像を、実践者本人と他の教員で振り返り、見いだした視点や課題を確認した。

IV 結果

1. 授業の題材選択の過程で検討したこと

まずは中学校現場で長く実践してきたメンバーが、中学校学習指導要領の例示にあり、学習指導で成果が認められる「走るー止まる」²⁾に倣って、「走るー見る」という題材による指導案を先行的に作成した。この指導案を検討した上で、各教員がそれぞれの専門と経験を生かして題材を提案し、複数で討議しながら課題解決型の授業に構成した。共通の授業展開は表2の通りである。

取り上げる題材によって、学習者のどのようなダンス技能を高めたいのか、それぞれ特徴を持った提案になるように検討を重ねた。また、大学生をモデルとして授業を行うことから、視聴者が実際の授業を想起しやすいように、対象に応じた検討事項などを解説で補うこととした。

2. 各教員が提案した授業と評価

映像コンテンツでは、それぞれの題材のポイント解説、提案者の特長の紹介と実際に中学校・高等学校で実践する際の留意事項、50分授業をどのようにダイ

表2

課題解決型授業の進め方の例	
ウォームアップ	5～10分
本日の題材の理解（板書など） 先生と一緒に技能等のポイントをつかむ ペアやグループでイメージや動きを共有	10～15分
ペアやグループの創作活動	10～15分
見せ合いとまとめ	10分

Google Chrome @ 全開ダンス実践演習検索... | 受信トレイ | wejpaw | My Yahoo! | トータル (10/10) | 日本語 | 買い物

ダンス指導に役立つ映像コンテンツ

— 日本女子体育大学舞踊学専攻教員による —

宮本映像 | 岩瀬映像 | 宮本映像 | 松山映像 | 坂本映像 | 高野映像 | 小山映像 | 八木映像 | アンケート

ご覧いただくみなさまへ

今回公開する8つの映像は、中学校、高等学校の体育の授業を想定し、課題解

下のボタンを押すと、各コンテンツページ(映像及びアンケートを含む)に進めます。
映像はそれぞれ20分前後に短縮しております。

「走るー見る」 宮本乙女	「洗濯機ダンス」 岩瀬多喜子	「動きで表す オノマトペ」 宮本乙女	「漢字を使って 感じよう」 松山善弘
「ポーズをつないで 動きを作る」 坂本秀子	「間に光を放つ」 高野美和子	「白鳥」 小山佳予子	「マイ・シグネチャー」 八木ありさ

Facebook | Google Chrome @ 全開ダンス実践演習検索... | 受信トレイ | wejpaw | My Yahoo! | トータル (10/10) | 日本語 | 買い物

タイトル：漢字を使って感じよう

著者：松山善弘

この授業のポイント(クリックすると詳細が載ります)

「漢字」から感じて、また仲間の形も見ながら、あまり考えたり計算しないで、さっと動いてみることに挑戦しましょう。お互いの作品を見てどんな感じがするかを感じてみたり、みんなの作品をつなげてクラス作品にもすることができます。

演出(クリックすると詳細が載ります)

本動画は、コンテンポラリーダンスの振り付け者であり、舞後のダンサーです。「まずは、動いてみよう」「友達のごききを感じてみよう」といった声をたびたびかけています。人と一緒にダンスのごきを追求する際に、それぞれがひらめいたものをまずは身体で動いてみたら、という創作法を身体で感じることができると想います。人数の多い中学校での授業では、一回は先生の引いたカードで体験したあとは、それぞれのグループが選出したカードを引いては即興的に漢字を作るという作業を何回か繰り返し、その中から好きだったものを選んで作品にするという手順もできるのではないのでしょうか。




アンケートへのご協力のお願い

本アンケートは、ダンス指導に役立つ映像コンテンツへのアンケート記入フォームです。皆様のご協力をお願いします。



図1 コンテンツ(一部)およびWebページのQRコード

ジェストにしているかを文字情報で示した。視聴者が、実際にこの題材を実践可能かどうかについてコメントを残せるアンケートフォームを組み込んだ。

映像は YouTube を利用しており、YouTube 側から検索して閲覧されている映像もあったと考えられ、8つのコンテンツの閲覧数は、2016年8月時点で414回から、多いものは3914回であった。

公開を開始した2015年11月から2016年8月までで、アンケートの入力は43件であった。内訳は、大学教員

17、高校教員3、中学校教員7、小学校教員1、幼稚園4、振り付け家・ダンサー1、表現関係職1、生徒・学生9である（同一人が複数のコンテンツに入力した場合複数カウント）。回答者数が少ないため、回答者の属性による回答内容の傾向を読み取ることは出来なかった。

アンケートに入力された意見（学生を除いた34の内訳）としては、「実践できる」27、「修正して実践できる」5、「その他」（実践してみたい・1部をピックアップ

表3 「走る一見る」

	タイトル	この授業のポイント(題材の特徴)	追記(指導者の特長の解説および、授業作りのヒント)
コンテンツの内容	走る一見る	ダンスでは視線を大事にすることでぐっと表現が深まります。体全体で「見る」という技能を身につけ、いろいろなイメージをもってひと流れを踊る事でお互いの表現を楽しみましょう。	中学校での学習指導の経験が長い指導者です。この映像は、50分の課題解決型の学習のモデル通りに進めています。映像の中の学生はある程度ダンスの動きになれているので、抵抗が少ない様子です。しかし、中学校・高校の初心者に対しては、はじめの太鼓でひと流れを動くところで極限を引き出すために、もう少し練習をします。またグループ活動時は、まず「立ち上がって相談しよう」「ひとりひとつずつは意見を出そう」など、活動のしかたを声かけすることから始めます。そしてできる限り生徒の中に入り、ほめてたくさんのフィードバックをして回ることが、大切になります。
	授業の概要	①ウォームアップ…8844221111のリズムダンスを踊る。 ②題材の理解…板書でひと流れや視線の効果「視線の先に何かが見える」について知る。 ③教師と一緒にポイントをつかむ…その場で見る、体全体で見る、ひと流れを極限の動きで。 ④ペアやグループの活動…3人組でリーダーを代わり合って動きとイメージを出し合う。タイトルをつける。 ⑤見せ合い・まとめ…見せ合う。	
評価と授業者の検討内容	題材の開発にあたり意識したこと	学習指導要領解説により、提示されている題材「走る一止まる」の発展だいたいである。「見る」という意識を持つことにより表現がぐっと豊かになるので、「視線の先に何かが見える」というキーワードを設定した。 今回の研究全体の本になる実践として、授業の流れは、課題解決型の授業できっちりと進めた。	
	Webに入力された評価	○1時間の授業の組み立てがしっかりできているので、指導しやすいと思います。体で見ることを「おへそで見る」と言われた瞬間、動きがかわりました。学習者にスッと入っていく言葉かけ、具体的に動きが湧いてくる言葉かけが大切なのだと思います。随所でほめたり、拍手の練習をして盛り上げたりと、モチベーションを高く保つための工夫も勉強になりました。学習者役が舞踊専攻の学生さんということで、出てくる動きが中学生とどのように違うのか興味がありました。課題練習の部分については、内容的にはそれほど変わらない感じですね。もちろん動きは大きくシャープですが、グループ創作についても2グループはリーダーに続け方式でしたので、やはり創作時間が限られていると課題練習の形式が色濃く残るのだなと感じました。だからこそ群の課題やはこの課題について学習させる必要があるのだと思います。最後の作品（食い場）を見ていると、「走る一見る」から素敵なお芸術作品が生まれる可能性を感じました。○授業の流れがダイジェストになっていて、とても分かりやすかった。生徒が動ける学生だったと思うので、実際の中学生を対象とした映像も見せて頂けたら、と思う。○「走る一止まる」よりも発展的な展開で、大変参考になりました。○先生も学習者も「誰でもできる」授業ではないかと感じがしました。学習者のほとんどが恥ずかしがり屋の中学生だと思うと取り組みやすいと思います。	
	評価を受けての検討	実際に中学生を対象とした展開を示すことは出来ないが、中学生の場合にどんなイメージが出るのかなどの資料を提示できたら、さらにこのコンテンツとしての完成度が上がると感じた。	

表4 「漢字を使って感じよう」

	タイトル	この授業のポイント(題材の特徴)	追記(指導者の特長の解説および、授業作りのヒント)
コンテンツの内容	漢字を使って感じよう	「漢字」から感じて、また仲間の形も見ながら、あまり考えたり計算しないで、さっと動いてみることに挑戦しましょう。お互いの作品を見てどんな感じがするかを話してみたり、みんなの作品をつなげてクラスの作品にもすることができます。	本指導者は、コンテンポラリーダンスの振り付け家であり、現役のダンサーです。「まずは、動いてみよう」「友達のごきを感じて話してみよう」といった声をたびたびかけています。人と一緒にダンスのごきを追求する際に、それぞれがひらめいたものをまず身体で動いてみてから、という創作法を身体で感じ取ることができると思います。人数の多い中学高校での授業では、一回は先生の引いたカードで体験したあとは、それぞれのグループが裏返したカードを引いては即興的に漢字を作るという作業を何回か繰り返し、その中から好きだったものを選んで作品にするという展開もできるのではないのでしょうか。
	授業の概要	①ウォームアップ…省略 ②題材の理解…漢字を使って、考えるのではなく感じることを理解する。 ③教師と一緒にポイントをつかむ…漢字を見て感じたままに5人で順に形になる。なぜそうしたのかを教師が問う。 ④ペアやグループの活動…話し合いではなく即興的に工夫していく。 ⑤見せ合い・まとめ…2つのグループの作品をつなげてクラス作品形式で踊りながら見合う。	
評価と授業者の検討内容	題材の開発にあたり意識したこと	課題が難しいと感じないように、出来るだけ簡潔に説明することを心がけた。 生徒自身が考えて(感じて)動く(見る)時間を多く取り入れることを意識した。ただし、作ることが難しいと思いたまないように、考えるよりも、まず感じたままをすぐその場で形にするということを強調した。 また、一人一人のアイデアが重なり、ある1つの形ができあがっていく過程を離れて観察することにより、空間をどのように使うかを意識するきっかけとなればよいと思う。	
	Webに入力された評価	○自身のイメージを自在に操ることのできるからでは、素晴らしいと思いました。表現の前に動けるからだづくりもポイントなのかなと、5人で創り上げる過程が面白いですね。1番目～2番目…と、自分のイメージと全体像の調和といったらいいですね。先生がいいですね。ああいうおじさんになりたいです。○「個」から「群」という展開ではなく、集団的な構成に向けて個が関わっていくという展開が大変参考になった。○漢字を使って感じようはイメージの広がりを感じますが、私には難しそう。指導者も学習者からのイメージを感じ取らないと次に進むのが大変そう。	
	評価を受けての検討	課題が難しいと感じないように楽しみながら動いていける工夫が更に必要であると考えている。	

ブ) 2であった。

各コンテンツの概要及び、教員がWeb評価を受けて実践を振り返り検討したことを表3～表10に示した。評価は、アンケートの自由記述コメント欄に記入された全28件の内、学生の入力した2件を除いて掲載した。

それぞれのダンスジャンルの専門家としての教員と学校現場でダンス学習指導を重ねてきた教員との振り返りにより、新たな気づき、改善点、工夫点等が導き出された。以下に述べる(ここでは「走る一見」「動きで表すオノマトペ」は、中学校実践の長い指導者による提案であるため、省略した)。

「漢字を使って感じよう」

この実践者は題材開発にあたり「考えるよりもまず

感じて動くこと」を意識したと話している。学生の動きを丁寧に待って、できあがったら「何を思ってそう動いたの?」と問いかける。学生が感じたことを、問いかけながら認めていき、そしてその過程を半分の学生に見せながら進めた。現場では、とかくてきばきと進めたいと考えがちであるが、このように問いかけながら引き出していくところには、学ぶべき点があると感じた。中学校・高等学校の生徒向けの授業にして行くには、課題が難しいと感じないように楽しみながら動いていける工夫が更に必要だと言うことや、中学校の基本的な段階であればもう少し短い時間で運動量を確保するようにテンポよく動くことも必要かもしれないと話した。

表5 「洗濯機ダンス」

	タイトル	この授業のポイント(題材の特徴)	追記(指導者の特長の解説および、授業作りのヒント)
コンテンツの内容	洗濯機ダンス	洗濯機の中に放り込まれた洗濯物がどんな風になっていくか、構成されたダンスの枠組みを使って踊ります。リズムのダンスの部分と、個人個人で洗濯物になる部分、友達と群を構成して楽しむ部分を体験し、大きな作品の構成法も学ぶことができます。	本指導者は、コンテンポラリーのダンサーであり、また振り付け家です。この授業では打楽器でうごきやイメージを引き出しています。その音色の変化に驚かされます。中学校・高校でもリズム太鼓でうごきやイメージを引き出す事がありますが、参考になると思います。また、中学・高校での授業では、この流れを数時間の単位として使うのはいかがでしょうか。例えばリズムのダンスのところを、毎時間少しずつウォームアップで増やして行って、数時間後に完成させる、何時間目かに洗濯機のデッサンからグループでうごき作ってみる、次の時間に群の構成を伝えてクラス作品にしていく、などです。
	授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> ①ウォームアップ…省略 ②題材の理解…洗濯物になる、投げ込まれる、回される、絡まる、洗濯物が踊り出す、ジャンプ、等構成を知る。 ③教師と一緒にポイントをつかむ…リズムダンスの所を練習する。 ④ペアやグループの活動…省略 ペアの工夫・練習 ⑤見せ合い・まとめ…全員で作品を踊ってみる。 	
評価と授業者の検討内容	題材の開発にあたり意識したこと	今回提示した「洗濯機ダンス」は主に即興的な部分、人やリズムに合わせて動くリズムダンス的な部分により成り立っており、いくつかの別々の要素を繋げることによって作品を踊ったような気持ちを味わえるようにしている。より時間がある場合はグループ創作の時間を置き、各グループが作った部分もこの中に入れることも可能であるし、振付の部分の難易度や質感も対象の年齢や要求に合わせて変化させることが可能である。今回は時間が無く入れられなかったが、グループ創作の時間を持ち、その要素をこのフレームの中に入れ込むことも可能。幼稚園の子供などにはリズムダンスの代わりに、指導者が前で服を持ち、新聞紙ダンスのように即興的に服の質感から動きを引き出すようなことも可能である。今回はグループ創作の時間が取れなかったので、リズムダンスの時間を少し部分を削っても、創作の部分を紹介した方が教材の紹介という意味では良かったのかな、とも思うが、学校教育の中でリズムダンス、創作ダンスと分かれて扱われがちだが、どちらも大切な要素であるし、二つの要素を合わせて扱うことができるという一例になればいいな、と思っている。	
	Webに入力された評価		○作品としてはエネルギー感です。記載のようにリズムダンスとして、またフロアテクニックとコミュニケーションとして実践してみたい。15時間のうち2回しかリズムには費やせない為、大学の現場で全ては出来ない残念。構成もリズム覚えるの大変、1時間内では無理ですね。中・高校ならもう少し短くして実践出来ると思います。○指導者が音と言葉で誘導していく、というところが新鮮であった。踊りも1～11まで課題に分けて提示があり結果として洗濯機(物)のイメージとなっていた。このような課題(題材)の提示を他のイメージで1～5くらいでも示して頂けると、指導が出来そうな気がした。○学習者が初めて構成のあるダンスに挑戦する場合に、大変参考になる展開方法であった。特に、リズムダンスと創作が同時並行的に展開できる点がよかった。○洗濯ダンスは自分がやってみたいです。太鼓の伴奏がすてきです。ロックやサンバでなくてもノリノリになれる感じです。
評価を受けての検討		洗濯機ダンスは様々な要素のものをフルーツバスケット的に中に放りこんでも作品っぽく成り立つという一例なので、各指導者の方に自由にその指導者なりの工夫を加えてオリジナルな洗濯機ダンスの枠組みを作ってもらいたと思う。私もこのフレームを使って幼稚園から大学生にまで指導しているが、幼稚園児には即興的な部分と簡単なリズムダンス的な部分、小学校、中学校には同じ動きでも対面にして人と組むことによってコミュニケーション的な要素を加えるなど、枠組みは保ちつつ対象によりレベルや各要素の扱いの優先順位を変えている。これをそのまま使うのではなくそれぞれの指導者の方が自分が教える対象の方にどの要素を一番理解してもらいたいかと考えて上でカスタマイズして使って頂くということが必要かもしれない。	

表6 「動きで表すオノマトベ」

	タイトル	この授業のポイント(題材の特徴)	追記(指導者の特長の解説および、授業作りのヒント)
Web掲載	動きで表すオノマトベ	オノマトベを口に出しながら動きでその質感を表してみます。3人組で次々に悩まないで動いてみる中から、イメージもわいてきて自然に流れのある作品ができていきます。精一杯大きく動くことが大切です。	中学校での学習指導の経験が長い指導者です。オノマトベを扱うときのポイントの1つは、とにかく声を出させることです。また、できるだけ単発でなく「ふわふわ」も「ふわふわーふわふわー」というようなつなげてダンスのひと流れの感覚に近づけるとうまく気持ちも乗ってきます。これが長すぎると身体も気持ちも飽きてしまいます。3人でリーダーを交代するときの感覚を映像から見ていただければと思います。作品にするとときに3つをつなぐというのも、初心者の小作品作りの王道といえます。(この題材は「明日からトライ!ダンスの授業」大修館より引用)
	授業の概要	①ウォームアップ…省略 ②題材の理解…板書でオノマトベとは何かを知り、知っている例を出し合う。 ③教師と一緒にポイントをつかむ…動きの質感が出るように大きく動く。 ④ペアやグループの活動…3人組でリーダーを代わり合っているいろいろな動きを出し合う。 ⑤見せ合い・まとめ…省略	
授業者の検討	題材の開発にあたり意識したこと	オノマトベから、質感の違う動きを引き出せることは、わかっていたが、それをどのように授業のスタイルにするとよりオリジナリティーを引き出せるのかについて、検討をした。その結果、リーダーに続けて「極限にする」声かけをまずしっかりとすること、および、小作品にする際に、気に入ったオノマトベを1つ選んだら、あと2つを加えて流れを作ることとした。	
	Webに入力された評価	○まず、動きに入る前に言語によって肯定的な場がつけられており、学習者の動きを導き出す工夫が大変参考になった。	
	評価を受けての検討	自由な表現の邪魔になる自意識をすてたり、仲間の間で認められるような雰囲気を作ることが大切だと再認識した。	

「洗濯機ダンス」

実践者はこの題材について「即興的な部分、人やリズムに合わせて動くリズムダンス的な部分により成り立っており、いくつかの別の要素を繋げる事によって作品を踊ったような気持ちを味わえるようにしている。」と語っている。そして、幼稚園の事例などをあげて対象の年齢や要求に合わせて変化させることができると説明している。このようなフレームを生かして現

場の教員が工夫をすることで、楽しい作品構成が出来るのだという大きなヒントを得ることができた。また学校現場ではリズムダンスと創作ダンスを学習指導要領上の区別から別のものと考えがちだが、どちらも大事であり合わせて扱う楽しさを伝えたいという実践者の意図が示された。現場の教員によりよくカスタマイズしてもらえるヒントの掲載も今後検討したい。

表7 「ポーズをつないで動きを作る」

	タイトル	この授業のポイント(題材の特徴)	追記(指導者の特長の解説および、授業作りのヒント)
コンテンツの内容	ポーズをつないで動きを作る	イメージを持って4つのポーズを見つけて、それをつないでいくことでダンスのひと流れが自然にできます。アクセントの工夫や移動を加える事によって、さらに人に伝わるものになることを楽しく味わい、自信を持って踊ってみましょう。	本指導者は、モダンダンスの指導者でありダンサーです。本大学のモダンダンス部の指導者として、学生自身の思いをダンスに削り上げていくことを技能面だけではなく、活動面から支援して毎年の作品を導いています。この提案授業でもダンスを見る人にどうするとより伝わるのかのポイントがはっきりとした短い言葉で大変わかりやすく示されています。中学・高校で授業とする場合には、本映像のようにごきの流れを先生の太鼓と声かけで引き出したあとに、同じ季節を選んだグループで相談タイムを作り、お互いを見合ったり、タイミングや場所取りを工夫させると、ひとりの活動で悩んでしまう生徒達にも取り組みやすいのではないかと思います。
	授業の概要	①ウォームアップ…省略 ②題材の理解…春夏秋冬いずれかを選んで4つのポーズをきめて、つないでいく。 ③教師と一緒にポイントをつかむ…ゆっくり決める、頭で決める、移動して決める、回って決める、移動を加える。 ④ペアやグループの活動…省略 ⑤見せ合い・まとめ…春夏秋冬、それぞれのテーマを選んだメンバーごとに発表する。	
評価と授業者の検討内容	題材の開発にあたり意識したこと	この題材で大事なところは「自然な動き」「自らが発した動き」を生徒から引きだそうとすることです。振り返ってみて、もう少しヒントとなるような情報の量を増やしてもよかったかなと思う。教師が先回りしすぎたアドバイスをしたり、すぐ答えを出してしまわず、学生、生徒にゆだねる時間が重要と思う。また、声をかけすぎると、動いている者の集中力を欠く場合もあるし、世界観が崩れるので、【静】も大切ななあ、と。	
	Webに入力された評価	○テーマの感じるまま動いてみて、彫刻イメージは面白い方法です、お互い見合いながら見ている方もイメージする、そしてなぜそうしたか聞き合うのも面白いです。ポーズを大切に、それプラス、ポーズからポーズへ変化の仕方をどう動きにするか、繋げて実践したいと思います。○4つのポーズを手掛かりに、つなぎの動きを教師が提示する約束によって、学習者が動きを生み出すという展開が参考になった。○参考になりました。止まるという動作ではどうしてもおしゃべりが、入ってしまう段階なので、生徒の発達段階に合わせながら指導に生かしたいと思いました。	
	評価を受けての検討	参考にして下さっているのは大変嬉しい。今後はもっといろいろな方法を提示してみたい。また、変化球を試みたい。	

「ポーズをつないで動きを作る」

この実践者は題材開発にあたり「自然な動き」「自らが発した動き」を引き出すために、どの程度の情報が必要か、答えを学生にゆだねる時間がどれ位いるのかという点を意識しながら指導したという。体育授業ではつい忙しく声をかけがちであるが、この実践者の語るように学生や生徒の「世界観」を大事にするという考えから学ぶべきものがある。実際の指導場面では、「自分の動きに自信を持つ」「ポーズもダンス」ということをホワイトボード等に掲示して強調しており、これは生徒に示したい新しい視点だと感じられた。

「闇に光を放つ」

この実践者は学生に語りかけながら、イメージの中

に溶け込ませ、即興的な動きを引き出すことができる。実際に手をこすってその熱を感じるところからの導入に思わず引き込まれた。普段ダンスに親しんでいる学生を相手にした授業では、教師が言葉と音楽で誘導しながら動かし続ける時間を長く設定するが、中学校・高等学校の初心者である生徒を対象とした時にはもっと短めにしていけないと気持ちが保てないのではないかとこのことを話し合いながら授業作りをした。実践者は、授業で意図した2つ目のねらい「仲間とイメージを共有しながら関わって踊ること」についてもホワイトボードに掲示すればよかったと、視覚情報の効果も意識するようになった。

表8 「闇に光を放つ」

	タイトル	この授業のポイント(題材の特徴)	追記(指導者の特長の解説および、授業作りのヒント)
コンテンツの内容	闇に光を放つ	闇の中で光を放つ、というイメージから自由に即興で踊ります。体の色々な部分を使って光を放つてみたり、どんな光なのかを想像しながら、自然に体の動きを変化させることができます。仲間と一緒に感じ合って動くときにイメージや動きが広がります。	本指導者は、ダンサーであり振付家で、創作のプロセスに即興を多く取り入れています。空間、時間、動きやイメージなど、様々な条件の下での即興ダンスを通じて、色々な体の使い方を発見する指導を得意とします。2人組になって真似する・ひとりがポーズひとりが踊る・感じあって踊る、という3つのパターンを体験してから創作に入るところは、打ち合わせ無しに動きやイメージを示し合い、創作の材料を共有できるということを手前に提案していると言えます。中学・高校生の場合、ある程度ゆっくりの動きにも集中して挑戦できる少し進んだ段階で取り組むとより効果的だと思います。
	授業の概要	<p>①ウォームアップ…省略</p> <p>②題材の理解…闇の中で光を放つというイメージについてどんな光があるか出し合う。</p> <p>③教師と一緒にポイントをつかむ…教師の声かけで体のいろいろな部分から光を放つイメージで即興的に動く</p> <p>④ペアやグループの活動…教師の声かけで2人組で交代したり感じ合ったりしながら即興的に動く。</p> <p>⑤見せ合い・まとめ…省略</p>	
評価と授業者の検討内容	題材の開発にあたり意識したこと	<p>この映像を制作した時点ではこの題材のねらいが「イメージから身体の色んな部分を使って自由にデッサン(即興)することができる。」ということで、参加学生にそれを説明し、ホワイトボードに貼ったが、後半部分の活動では自分以外の仲間と関わって踊りイメージをシェアして短い流れを踊っている。始めのねらいを示すところで、二つ目のねらいとして「仲間とイメージを共有しながら関わって踊ることができる。」と説明し、ホワイトボードに貼っておくとよかったと今思っている。</p> <p>今回、映像収録の際の参加者は舞踊を専門とする学生で、光をイメージして即興的に踊るという題材について抵抗なく踊っていたが、初心者にとっては即興で踊る時間が長いと間が持たなかったり、戸惑うところも出てくると思う。レベルに合わせて即興的に踊る時間を短くしたり長くしたりすることが必要だと考える。</p>	
	Webに入力された評価	<p>○『光』条件の下での即興ダンスを通じて、色々な体の使い方を発見する→指導として理解し易いと思います。お互い感想を言ってもら(フィードバックし合う)事は、やはり必要と思いました。</p> <p>○テーマに対して、自分のイメージ、イマジネーションを身体の動きで表現していくような。そのようなことをコンテンツを見て感じました。テーマも面白く、次は違うテーマでいこうというように題材を色々に変えていけるものだとも思うのでとてもいいコンテンツでした。学生の振り返りでの言葉がとても面白かったです。○動ける、踊ることを苦手としていない学生さん方なのでとても有意義な時間にお思いました。動くのが苦手な子どもたちだとどうだろうか…。○教師の言葉がけによって、学習者の想像力を引出し、切れ間なく展開する内容で、大変参考になった。発展的な展開では是非実践してみたい。○こすった手から光が生まれたとたんに作品になっているように思いました。ダンスを学習する人が映像の人ぐらい心が解放されていたら素敵。</p>	
	評価を受けての検討	<p>2人で関わりながら踊る場面において、踊りを作っていく段階の助けになるように、踊った直後に湧いてきたイメージや出てきた動きで面白かった部分の感想などをお互いに言い合うフィードバックの活動を意識的に入れたところ、映像視聴者の感想において、学生同士のフィードバックについて肯定的なご意見をいただき、今後の実践の励みになった。</p> <p>ゆっくりとした滑らかな光を想定して踊っている学生が多かったのは、指導者側の言葉がけや使用した音楽の影響と考え、素早い光やダイナミックな迫力のある火の玉などのイメージなども指導者側で与えることによって、迫力のある躍動的な動きも引き出せると思う。そして音楽も素早く迫力のあるものを途中で差し込んで流すことで、そのような動きも引き出せるのではないかと思う。「踊ることが苦手な生徒にどうか…」というご意見に対してそのような工夫をお勧めしたいと考える。</p>	

表9 「白鳥」

	タイトル	この授業のポイント(題材の特徴)	追記(指導者の特長の解説および、授業作りのヒント)
コンテンツの内容	白鳥	バレエの三大原則を知り、特にその中のエレヴェーションに注目して「白鳥のイメージ」を踊ってみましょう。体を引き上げることで身体の見え方も変わるし、表現の幅も広がることが感じられるでしょう。	本指導者は、クラシックバレエの専門家であり、大学ではバレエの初心者から上級者までの指導をしています。また、研究室の学生には古典の作品を越えた創造性豊かなバレエ作品の創出を導いています。この授業は、バレエの大事な原則から授業を作ることに挑戦したものです。原理原則をくり返し伝えながら、それを意識して実際に「白鳥」の曲をBGMに動くことでどんな表現ができるでしょうか。お互いに続けて発表する方法も、余り構えた発表でなく作品の一部になったように踊れる方法だと言えます。中学生、高校生でもダンスの簡単なレッスンを恥ずかしがらずにできる段階になったら、このような授業をしたら、ぐっと身体への意識も高まると思います。
	授業の概要	①ウォームアップ…省略 ②題材の理解…エレベーションについて理解する。写真をみたり動作を思いながら上昇する白鳥をイメージする。 ③教師と一緒にポイントをつかむ…イメージしながらおへその下を上上げる。肩が上がらないようにする。 ④ペアやグループの活動…グループで白鳥が飛び立っていくまでをイメージした動きを見つける。 ⑤見せ合い・まとめ…グループが順に踊っては通り抜けていくという連続的な発表をする。	
評価と授業者の検討内容	題材の開発にあたり意識したこと	バレエの三大原則(アンデオール アプローチ エレベーション)を説明し、この3つの要素から、美しく踊る事、美しい身体づくりに広がっていくことを理解してもらいたいと考えた。 この題材では、身体を引き上げるといふ「エレベーション」に焦点をあて、身体を引き上げる表現として代表的な「白鳥になる」ことを取り上げた。地上から天空に向かう白鳥をイメージして、飛び立つ様子をイメージすることから引き上げるといふことを身体で感じながら作っていく。バレエの基礎訓練(バー・センター)以外の作り方として提案した。	
	Webに入力された評価	○バレエでは、型が確立されているために、創作的な展開が難しいと考えていたが、鳥の動きを手掛かりにして、学習者にイメージしやすい内容であった。また、展開の中で、細かな身体の使い方のアドバイスがあり、身体技法も学べる点が大変よかった。○バレエの洗練された技術の中には、バレエの目指すダンスの美しさがしっかりと位置付いているが、それを初心者の学習の中に生かす方法としてイメージを介在させると言うところが非常に参考になった。上昇していく鳥のイメージを表現するときに体を引き上げていく感じが同時に意識されていくことで、体で思いながら体で踊ることにつながる。	
	評価を受けての検討	授業の中で、白鳥の動きの例を出すべきか、出さない方が工夫が生まれるのか、今後の課題である。幼児期には疑似的な動きを用いて表現に組み込むが、中高生の身体意識として、白鳥を体得させるとは、誰も行っていない内容であったので、自分自身とても興味深かったが、学習者にはどう感じられたのか、今後も実験的な場を設けて新たな教育に結びつけて行きたいと考える。 付記：後日、同じ内容を、バレエを習っていない小学生へのワークショップで試みたところ、児童の反応もよく、楽しんで取り組めたので、イメージを介在させてバレエの技能をダンス教育に生かす可能性を感じた。	

「白鳥」

この実践者の専門がクラシックバレエであるため、最初は研究チーム内でも題材の開発に戸惑いがあった。しかし、「バレエの三大原則」から目指すべき技能目標「エレベーション」を選び出し、白鳥というイメージを掛け合わせるというアイデアが生まれて、クラ

シックバレエで用いられるバーやセンターのレッスンではない方法で技能を伝えるという、授業の具体的なイメージが浮かんだという。白鳥の様々な動作の写真を用意したり、ホワイトボードへの掲示を工夫したりすることにより、より伝わりやすい授業のスタイルを創り上げていった。

表10 「マイ・シグネチャー」

	タイトル	この授業のポイント(題材の特徴)	追記(指導者の特長の解説および、授業作りのヒント)
コンテンツの内容	マイ・シグネチャー	ダンスセラピーの中で行われる活動をダンスの授業でやってみます。自分の今の気分はどんな動きになるのでしょうか。相手にどんな風に伝わるのでしょうか。また、動きの時間性や空間性、力性などヒントとなる知識も学習してみましょう。	本指導者は、ダンスセラピーの研究実践者です。その声かけの時の表情やタイミングの心地よさを感じます。セラピーの時には、もっと時間をかけてじっくりと、引き出していくのですが、今回は授業スタイルで学習者の動きを引き出す言葉をかけています。一人の活動が長目ですので、自分の動きや世界をつかみ始めた頃に取り入れてはどうでしょうか。中学生高校生の授業では、動き方の特徴(時間・空間・力の内容など)が言語化されたカードをみながら学ぶ部分を少し簡潔にしてもよいかもかもしれません。
	授業の概要	①ウォームアップ…体の部位や空間、速さなどを変えながら歩いたり走ったり人とすれ違ったり、単純な動作を変化させてゆく。 ②題材の理解…空間に全身でひと流れのシグネチャーを描く、という動きと動きの中で生まれている気分の結びつきの理解。 ③教師と一緒にポイントをつかむ…時間・空間・力など動きの質感を生み出す要素の理解。 ④1人の活動…教師の声かけで自分の好きなひらがなを動いてみる。自分が動いた感覚をクレヨンで描く。 ⑤見せ合い・まとめ…ペアになった相手と動きを見せ合う。相手の動きをクレヨンで描く。クレヨン画の形・勢い・色なども見て話し合う。	
評価と授業者の検討内容	題材の開発にあたり意識したこと	自分の動きの感覚と、その時に感じている気分を結びつける経験を意識化できるように、①変化してゆく動き方の特徴とイメージの結びつきを強調、②動き方の特徴(時間・空間・力の内容など)が言語化されたカードを全員が見えるところに配置、③感覚の言語化を助けるために動きの感覚の描画とその説明を活用した。また、指導者からのフィードバックよりも、生徒同士のシェアリング場面を優先した。また、この教材では「見せ合いは「成果の発表」というよりは、自分の動きたい感じが実現できているか、他者にはどのように捉えられているか、の確認の場となる。	
	Webに入力された評価	○身体を通じて他者と関わる内容で、よどみなく展開される学習の進め方が興味深く、大変参考になった。○先生が丁寧に学習者に声をかけながら自分を見つめる世界に入り込ませる様子が勉強になった。中学高校の授業ではどちらかというとエネルギーに引っ張っていきが多かったが、少し進んだ段階ではこのようにゆっくりとした声かけでひとりひとりの動きを引き出すことも可能で有り、必要なのだと感じた。そして絵を描きながら友達と振り返っていく活動も参考になった。	
	評価を受けての検討	部分的な紹介である動画から、「他者と関わる」中で「自分を見つめる世界に入る」というこの教材の大目標を理解していただけたことで、この教材の組み立てに一定の効果があるとわかった。コメントのように「少し進んだ段階で」同一メンバーでのダンス体験が成熟してゆくと、気分の表れ方についてのシェアもしやすくなってくるので、学びが深まると考えられる。一方、ダンスに取り組み始めたばかりの頃であれば、「気分」に強くとらわれずに、オリジナルな動きの多様な特徴を捉えることに集中する進め方の工夫が必要か。描画を用いる際に、「苦手」意識のある参加者へのサポートとしての「描き方」の解説は、動きを生み出すサポートにもなるはずなので、その方法を今後丁寧に検討したい。	

「マイ・シグネチャー」

この実践者は「ダンスセラピーとしては教材の可能性を広げて行けそう」だと感じたが、中学校・高等学校のダンス授業を強く意識しないで実践したと振り返る。しかし、実際の授業提案からは、教師の声かけによってゆっくり自分と向かい合うことや、友達と体やクレヨンで形を描きながら交流して行くことの中で、自分を見つけていくというセラピーの手法が、仲間と

の関わりの中で自分のダンスを見いだしていく授業の中に生かされるという実感を得た。ダンスに取り組み始めたばかりの頃であれば、「気分」に強くとらわれずに、オリジナルな動きの多様な特徴を捉えることに集中する進め方の工夫ができそうであり、描画を用いる際の解説の方法なども丁寧に検討したいという、今後に向けての方向も見いだせた。

V ま と め

1. 映像コンテンツの内容について

研究チームでの振り返り、および Web 入力内容から、課題解決型の授業スタイルでそれぞれの教員の特長を生かして作成した映像コンテンツは、中学校・高等学校などのダンス教育現場に新しい視点を提供し実践できる可能性を持っていると判断できた。

課題解決型の授業を構成するにあたっては、その題材でどのようなことを生徒から引き出そうとしているか、何がよい動きとして評価できるのかをはっきりさせ、短い言葉で示すことなどにより、学習者と教師がそのポイントを共有できるのではないかということを確認した。

ダンスの専門家、大学教員が中学校・高等学校向けに50分の授業を想定する場合、教師から与え動きを引き出す時間と生徒が活動する時間の配分の工夫を必要とした。

今回のコンテンツ開発とそれに対する評価を通して、新たな題材開発への意欲を持ったことも成果のひとつであると考えられる。

2. 映像コンテンツの配信方法について

コンテンツの配信に Web を活用したことによって、視聴数は多かったが、評価の収集は十分にはできなかった。本学のホームページの掲載場所など、公開方法や宣伝に工夫が必要であると思われる。

謝 辞

映像コンテンツ制作にあたり押止友二、伊藤祐輔両氏に多大な協力をいただいた。感謝申し上げます。

本研究は2014年度二階堂共同研究の助成を受けて行ったものである。

注

- (1) 松本等の提案した課題選択の柱に基づく例として、「伸びる－縮む」「走る－止まる」「走る－跳ぶ－転がる」「集まる－とび散る」「新聞紙」「ねじる－回る－見る」「大回り－小回り」「序破急」などが学習指導要領の例示³⁾に記載されている。

引用文献

- 1) 松本千代栄他(他)日本女子体育連盟 授業研究グループ (1999), 舞踊課題と創作学習モデル そのII－学習内容の選択とその展開一, (他)日本女子体育連盟紀要 '98-1 : p.249および p.255
- 2) 宮本乙女 (2011) ここから始めるダンスの授業6時間の単元例3時間目「走る－止まる」: 明日からトライ! ダンスの授業(全国ダンス・表現運動授業研究会編), p.14-17, 大修館書店, 東京.
- 3) 文部科学省 (2008) 中学校学習指導要領解説 保健体育編, 東山書房, 京都.
- 4) 中村恭子 (2011) ダンス学習の内容と方法: 明日からトライ! ダンスの授業 (全国ダンス・表現運動授業研究会編), p.140-143, 大修館書店, 東京.
- 5) 中村なおみ, 宮本乙女, 中村恭子他4名 (2014), 中学・高等学校におけるダンス教育推進に向けての調査及び取り組みについての研究, 笹川スポーツ政策研究 3(1): 230-239.

(平成28年9月15日受付)
(平成28年12月14日受理)

